

令和5年度SE推進事業「国語の授業づくりモデル小学校」

河内長野市立小山田小学校

言語活動を通して 思考力・判断力・表現力を育てる
～本文から正しく内容を読み取り、表現に活かす授業づくり～

取り組み

1. はじめに
2. 研究テーマ つけたい力
大切にしてきたこと
3. 取り組み
1年、2年、3年、4年、5年、6年、支援学級
4. 学校全体の取り組み
5. 取り組みから見えてきたこととこれから
6. おわりに

1. はじめに

○昨年度までの課題

全国学力・学習状況調査より

- ・読み取りの弱さ
- ・記述式問題の無回答率の高さ
- ・国語への苦手意識



校内研究を子どもの力につなげるために

子どもが

筋道立てて考える
情報の取捨選択・関連付けて考える
自分の考えをもつ

教師が

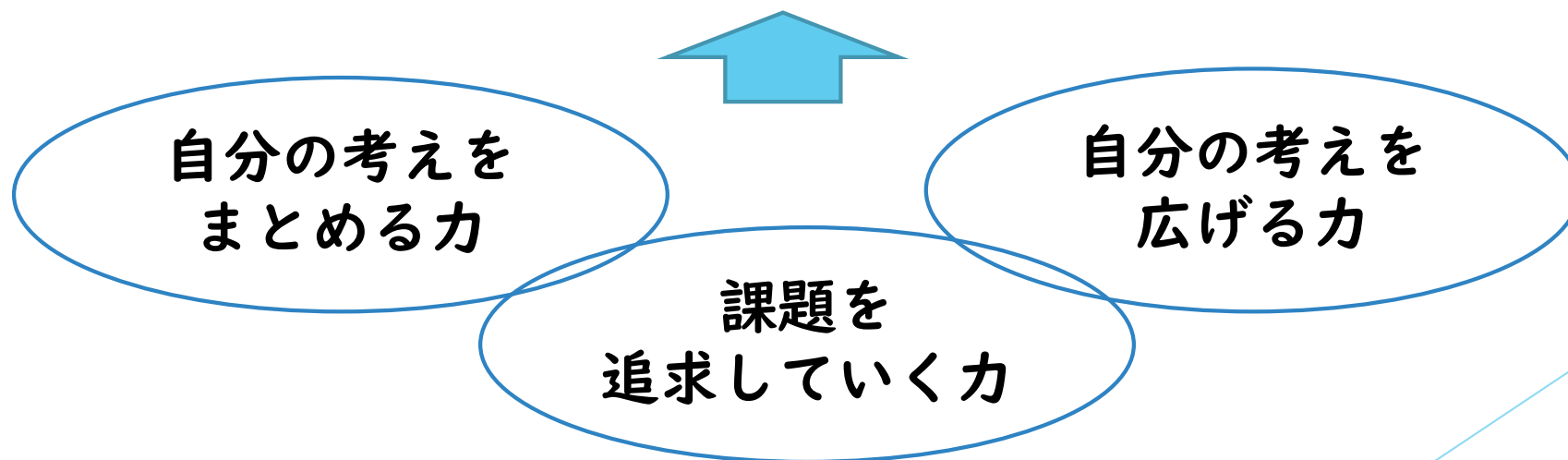
系統性を意識する
単元でつきたい力、ゴールを明確にする
逆向き設計でつきたい力のための手立てを考える

2. 研究テーマ つけたい力 大切にしてきたこと

課題と学習指導要領より

研究テーマ

言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育てる
～本文から正しく内容を読み取り、表現に活かす授業づくり～




子どもたちにつけたい力

- ★言語活動を通して児童が主体的に学習し解決することができる力
- ★複数の資料を関連付けながら筋道立てて考え、自分の考えをまとめる力
- ★取り出した情報を自分の考えと結び付けて表現する力

児童

説明文の「読むこと」を「書くこと」にいかす

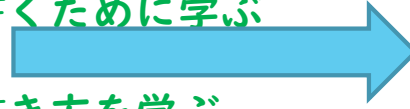
【読むこと】

- ▶ 言葉を根拠に構成を読み取る。

- ▶ 筆者の考えをとらえ、自分の考えたことを文章の内容を引用してまとめる。



他教科の説明の仕方に活かす
(調べたことをまとめる・報告文・新聞・算数の説明)

複合的
書くために学ぶ



書き方を学ぶ
自己表現するために読む。

1学期は読み手の立場で書く。



使うことで構成定着
伝え方を学ぶ

2学期は書き手の立場で書く。

【書くこと】

- ▶ 経験や生活と結び付けて自分の思いや考えを表現する。
- ▶ 理解したことに基づいて考えを書く。
- ▶ 学習した説明の仕方を活用して表現する。



他教科の書き方、書く指導に活かす
(観察記録・新聞・算数の説明)



教師

説明文の「読むこと」を「書くこと」にいかす。

【読むこと】

- 筆者の主張を捉えさせる。
 - ・ 筆者の考え（問いと答え）や理由と事例に色分けして線を引く。
- 全体を見て考えられるようにする。→ 構成
 - ・ 文の構成を捉えるために構成が分かりやすいワークシートの工夫。全文で示す。
- 本文の叙述から理由や根拠を見つけさせる。
 - ・ 重要な語や文を選び出す。要約する。順序を表す言葉に注目させる。
- ペア学習やグループ学習
 - ・ 考えをもつ → 交流する → まとめる → 伝える 場面の設定

他教科の説明の仕方に活かす
(調べたことをまとめる・報告文・新聞・算数の説明)

【書くこと】

- 自分の意見と事例の整合性構成を意識させる。
- 主張・理由・事例を付箋や線で色分けさせる。
- モデル文の作成。既習の説明文で振り返る。→ ゴールイメージとポイント確認
- ペア学習やグループ学習

他教科の書き方、書く指導に活かす
(観察記録・新聞・算数の説明)

複合的
書くために学ぶ

書き方を学ぶ
自己表現するために読む。

使うことで構成定着
伝え方を学ぶ

単元でつきたい力 ゴールからの逆向き設計

書くために読み取る

書くこと

- 経験や生活と結び付けて自分の思いや考えを表現する。
- 学習した説明の仕方を利用して表現する。

読むこと

- 言葉を根拠に構成を読み取る。
- 筋道立てて考える。
- 筆者の主張を捉える。
- 自分の考えたことを文章の内容を引用してまとめる。

大切にしてきたこと①

系統性

- ▶ 指導要領の目標の系統性を示し、単元計画を立てる際に意識するようになった。

(例) 1・2年

3・4年

中心となる重要な語や文を選び出す力 ➡ 中心となる語や文を見つけて要約する力

- ▶ ペア研で指導案を検討することで、つながっている学年の目標を確認でき、ゴールやつきたい力、それに対する手だてを自分の学年と比べて考えることができた。

学びの積み重ね

- ▶ 1学期から2学期教材や他の教材に学びを積み重ねる

(例) 3年生「こまを楽しむ」

「すがたをかえる大豆」

初め・中・終わり 問いを学習

➡ 文章構成に気付く 隠れた問いに気付く

(例) 6年生「時計の時間と心の時間」

「わたしたちにできること」

主張に対する事例の関係を捉える

➡ 提案する文章の構成に活かす

- ▶ 全体の構成を読み取る

(例) 1・2年

➡ 3・4年

➡ 5・6年

全文を示す

初め・中・終わり

主張・考えとそれを支える理由や事例との関係

大切にしてきたこと②

対話

個人まずは自分の考えを書くことを大切に

- ▶ ペアで・グループで交流する。
- ▶ 単に話すことにならないように
- ▶ 具体的に何について交流するのははっきりさせる

◎ポイントの確認

◎良さを見つける

◎異なる考えに気付く

◎レベルアップ 助言し合う

- ▶ 思考を深めるために「考えをもつ」「交流する」「まとめる」「伝える」場面を設定。



大切にしてきたこと③

授業改善

【学習の中で】

- ・読み取ったことをふり返る
- ・子どもの書きぶりから指導をふり返る

【単元の中で】

- ・取り出した情報を自分の考えと結び付けて表現
- ・読み取ったことを書きぶりに活かす

【研究授業の中で】

- ・単元でつけた力をふり返る
- ・前回よりも書けるようになったとわかる
- ・次の学年に活かす（例 教師の例文）
- ・児童のゴールの姿とそのため取るべき手立てが考えられるように、全員がゴールの文を書いた。

【研究体制で】

- ・1学期指導案検討、ペア研校内研の授業参観、放課後の討議会
- ・夏休みに1学期の取り組みのふり返り報告、センターの土居先生と桐島先生のご指導
- ・2学期指導案検討、ペア研校内研の授業参観、放課後の討議会

どの研究授業にも全員で関わり、市教育委員会の小林先生・大西先生にご指導を受けた。



3. 取り組み

- ペア・低学年 支援担任2人 算数専科
- ・中学年 支援担任2人 理科専科
- ・高学年 支援担任 通級担任 教務 (SE担当は全学年に入る)

○説明文教材の指導計画

○1学期と2・3学期に1回ずつペア研究授業と校内研究学校公開授業を行う。

○1学期はSE担当が授業を進める。

【1学期の取り組み】

- 4月26日 6年生 「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」ペア研修
- 5月18日 2年生 「たんぽぽのちえ」ペア研修
- 5月30日 5年生 「見立てる」「言葉の意味が分かること」ペア研修
- 6月13日 3年生 「こまを楽しむ」校内研究授業
- 6月23日 1年生 「くちばし」ペア研修
- 7月 5日 4年生 「アップとルーズ」ペア研修
- 7月13日 支援学級 「お楽しみ会をふりかえろう」ペア研修

3. 取り組み

【2学期の取り組み】

- 9月28日 1年生「うみのかくれんぼ」校内研究授業
- 10月 4日 支援学級「運動会へ来てほしい気持ちを伝えよう」校内研究授業
- 10月27日 3年生「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」ペア研修
- 12月 4日 学校公開授業
2年生「馬のおもちの作り方」「おもちの作り方をせつめいしよう」
4年生「世界にほこる和紙」「伝統工芸の良さを伝えよう」
5年生「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」

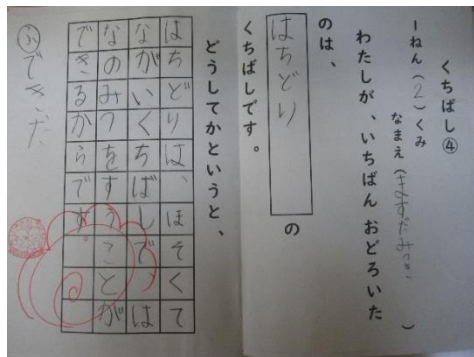
【3学期の取り組み】

- 1月 6年生「メディアと人間社会」「大切な人と深くつながるために」
校内研究授業

1年生「くちばし」「うみのかくれんぼ」

説明する文章を読み、分かった事や考えたことを述べる言語活動

興味を持ったくちばしを選び、選んだ理由を書くことができた。



説明する文章を読み、分かったことを伝える言語活動

文章の中の大事な言葉（「何が」「どこに」「どのようにしてかかっているのか」）や文を考えて選び出すことができた。



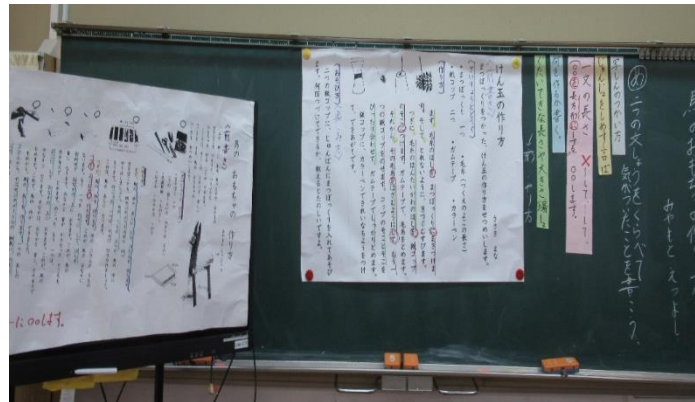
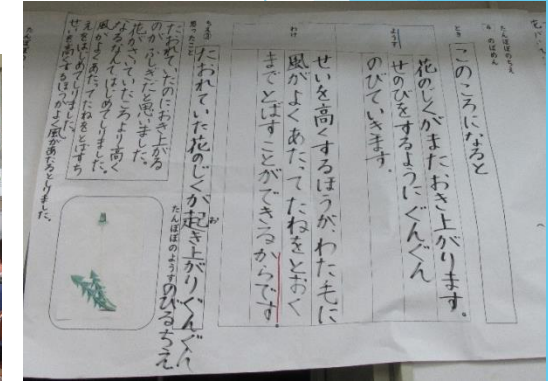
2年生 「たんぽぽのちえ」 「馬のおもちゃの作り方」 「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

時間の順序や理由付けを表す言葉に着目して内容を正しく読み、自分の感想をまとめ伝え合う言語活動

1年生に紹介したい知恵を選び、理由と思ったことを書くことができた。
初め、中、終わりの3つに分け文章を書くことができた。

作り方を説明する文章を書く言語活動

分かりやすい文章にするための工夫を取り入れ、組み立てメモを書き直すことができた。



3年生「こまを楽しむ」

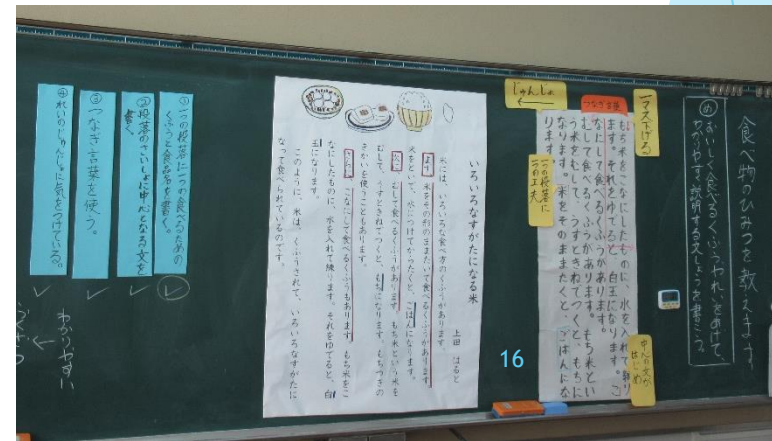
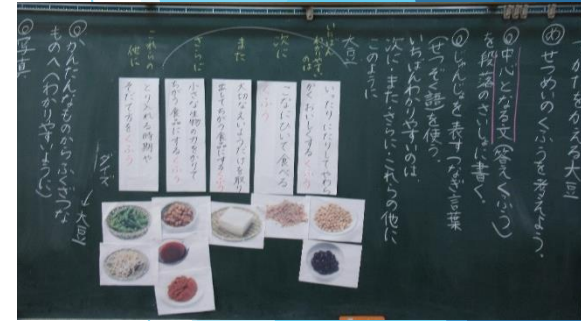
「すがたをかえる大豆」「食べ物のみみつを教えます」

説明する文章を読み、考えたことを伝え合う言語活動

自分がもっと遊びたいこまを選び、特徴と選んだ理由を書くことができた。
思考ツールの活用 情報を整理し、構成を考えることができた。

筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く言語活動

選んだ食材について事例を挙げながら表現を工夫して文章を書くことができた。

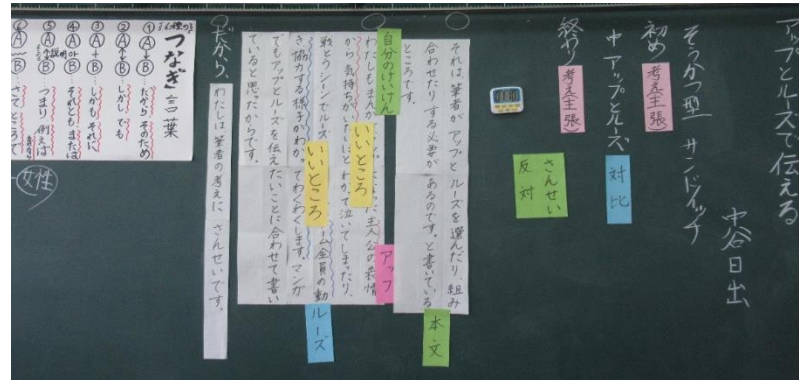
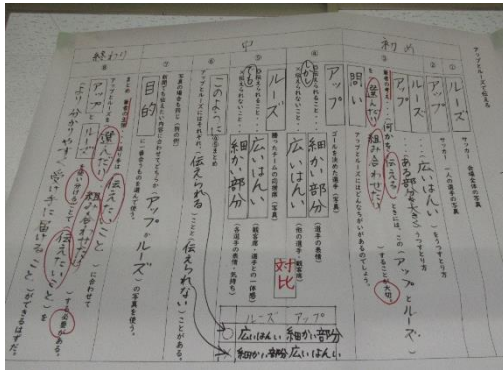


4年生「アップとルーズ」

「世界にほこる和紙」「伝統工芸の良さを伝えよう」

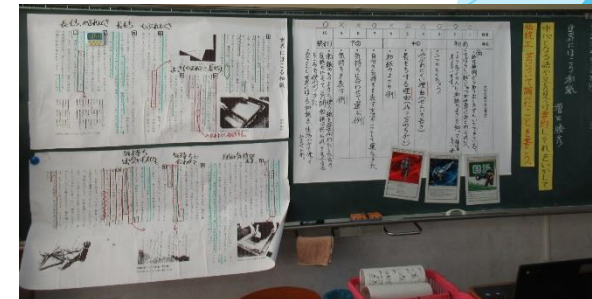
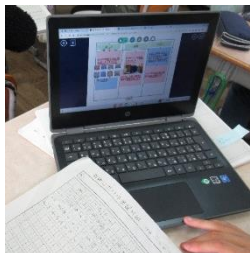
文章の一部を引用して分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする言語活動

叙述を基に筆者の考えを捉え、筆者の考えに対する自分の考えを経験と結び付けてまとめることができた。構成を考えて書くことができた。



学校図書館などを利用し、調べて分かったことなどをまとめて書く言語活動

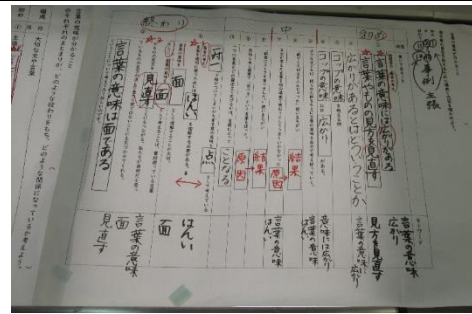
調べたことをもとに、伝統工芸のみりよくとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことができた。



5年生「見立てる」「言葉の意味が分かること」 「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」

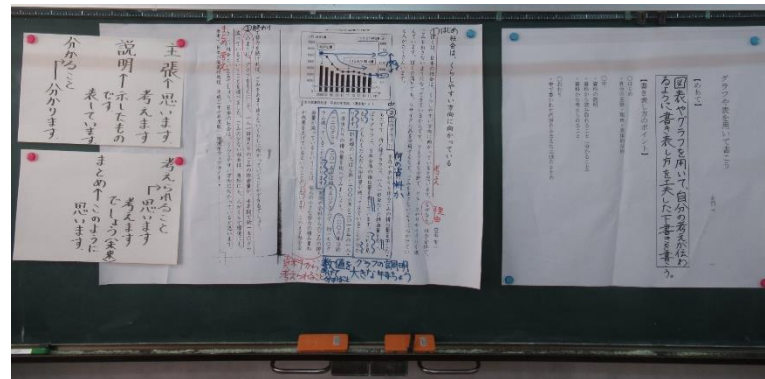
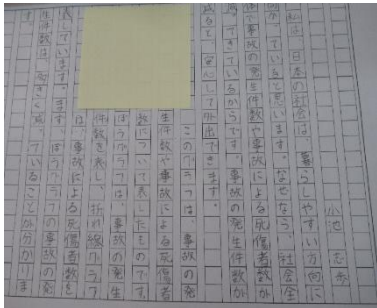
筆者の考えや論証の仕方を読み取ったうえで、自分の立場を明確にして文章に対する自分の考えを発表する言語活動

要旨を捉え、筆者の考えに対する自分の考えを、経験や体験、知識と結び付けて書くことができた。



筆者の説明の工夫について考えをまとめて話し合ったり、学校図書館などを利用して調べた統計資料を根拠に意見文を書いたりする言語活動

図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、下書きにまとめることができた。



6年生 「笑うから楽しい」 「時計の時間と心の時間」

主張と事例の考えを捉え、それを使って話題に対して自分の考えを伝え合う言語活動

主張と事例の構成を考え、意見文を書くことができた。
主張とそれに合わせた事例を、自分の経験を想起して書くことができた。

発表の聞き方

うなずきながら。メモを取りながら。

内容の着目点（聞くポイント）

①筆者の何に着目した？（主張？事例？）

②筆者の主張に共感？納得？疑問？

③どんな経験からそう思ったの？

④自分の考えと比べて

感想の伝え方

・～がよくわかりました（共感・納得）

・～についてもっと知りたいです。（疑問）

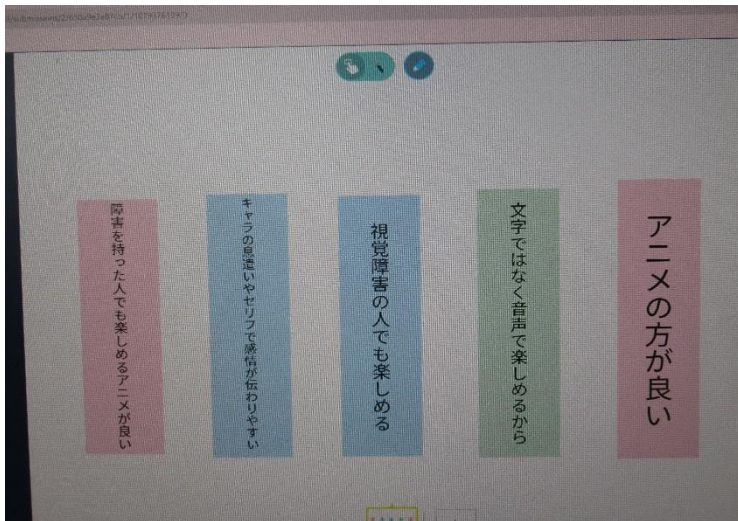
・私と同じで（違って）～（比較）

⑤

さん	さん	さん

まとめ	理由や具体例	自分の考え	内容 メモ
(自分の考えを伝える)	(自分の考えを伝える)	(自分の考えを伝える)	(自分の考えを伝える)

筆者の主張



支援学級 なかよし の取り組み

支援学級全体で取り組む国語科の年間計画と評価（単元計画）

時	学習内容	学習評価（◎記録に残す評価○指導に活かす評価）			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1	お楽しみ会のことをふりかえる			○	様子・発言
2	伝えたいことを考える①		○		様子・発言
3	伝えたいことを考える②	○			様子・発言・記述
4	お楽しみ会の感想を伝える		◎		発表・発言
5	運動会の練習日記をつけよう（団体演技）	○	○	○	様子・記述
6	頑張っていること、できるようになったことを考える		○		様子・発言
7	招待状を書く	○			様子・発言・記述
8	運動会へ来てほしい気持ちを録画する	◎	◎		様子・発言・録画
9	よりよい伝え方を考える。	◎			様子・発言
10	運動会へ来てほしい気持ちを伝える		○	◎	家庭協力（自己評価）
11	仲間との思い出をふりかえる			○	様子・発言
12	ありがとうと思ったできごとを考える①		○	◎	様子・発言
13	ありがとうと思ったできごとを考える②	○			様子・発言・記述
14	仲間へ感謝の気持ちを伝えよう		◎		発表・発言

1学期

2学期

- 特別支援学校小学部の国語科
- 国語科と自立活動を合わせた指導

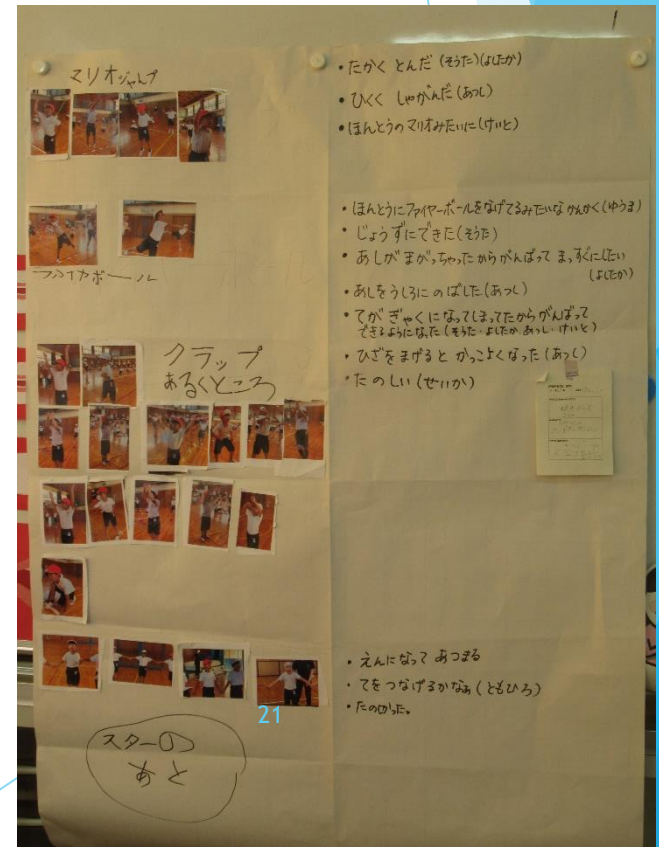
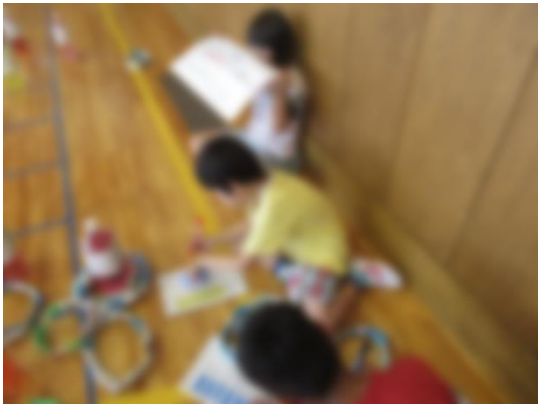
支援学級 1学期 「お楽しみ会をふり返ろう」 2学期 「運動会へ来てほしい気持ちを伝えよう」

個別の課題に応じた目標に対して

思ったことや伝えたいことを書く活動 「発表メモ」 「招待状」 「感謝の手紙」

伝えたいことを話したり聞いたりする活動 「発表会」 「思いを伝える動画」 「仲間との思い出の共有」

できるようになったことを伝え、より良い伝え方について考えた。



個に応じたゴール設定と手立て

1

2

わたしは、
たのしかったです。
どうしてかという理由を、
からせて。
これでおわります。

3

お楽しみ会で、
うれしかったことは、
大変だったことは、

4

はじめ
お楽しみ会の作文を書いたこと
【メモ】

中
お楽しみ会の作文を書いたこと
【メモ】

おわり
お楽しみ会の作文を書いたこと
【メモ】

大賞・がんばったことメモ

うれしかったことメモ

支援学級全体でのゴール設定

伝える内容の段階

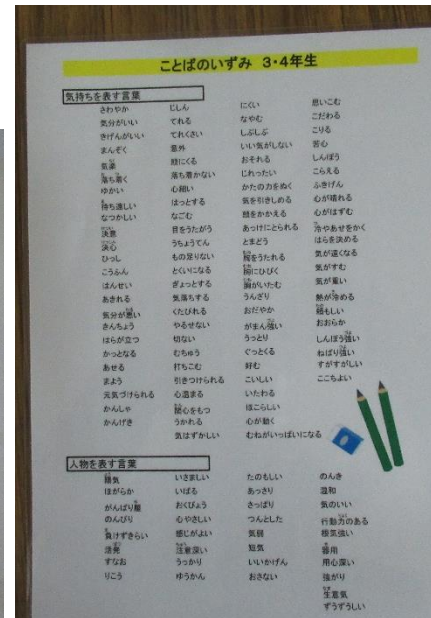
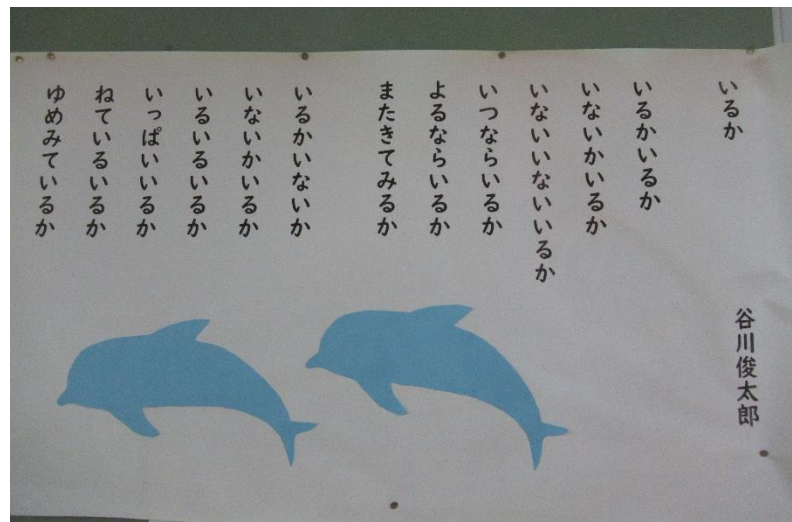
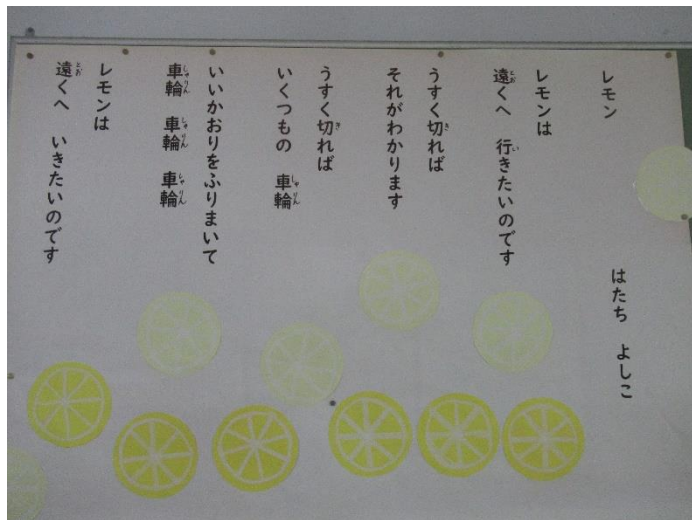
1	写真や絵から伝えたいことを選び、提示する。
2	経験を3文から5文程度で伝える。
3	経験や理由など5文から7文程度で伝える。
4	はじめ・中・おわりや事柄の順序を考えて伝える。

4. 学校全体の取り組み

▶ モジュールの時間に新聞ワークや国語プリントの実施

▶ 「ことばのいずみ」児童一人ひとりに配布活用

▶ 月ごとに詩を紹介



4. 学校全体の取り組み

▶ 俳句募集

「小山田プールで5・7・5」

「運動会で5・7・5」



▶ 図書室との連携 関連図書の並行読書 11月読書冊数表彰

▶ 自主勉強のすすめ 自主勉強コンクール

▶ 国語通信「よみとり」の発行で取り組みの共有

▶ 小山田スタンダード わかる授業づくりのための8項目 国語

小山田標準通信
2023.9.11 NO.13

2 単題授業スタート

言語活用を通して思考力・判断力・表現力を育てる一歩から大きく内
容を積み重ね、表現に活かす授業づくり

2 学期の授業がスタートしました。どの学年も、久しぶりのクラスの定着とコミュニケーションやワーキングアップができるように、前学期より友達と話す対話の練習「話し合い」の単元やフレットや新聞などの読み方の学習「読むこと」という単元のスタートです。

【話すこと聞くこと】
1 年生…「ききたいな」ともだちのはなし（夏休みの思い出）
2 年生…「た」とはてみらんない
3 年生…「た」とはてみらんないを音ごう（目標 絵本にたづねるように話す準備をする）
内容 集合場所を自分で決めて、ことばで運動場をします。

1. 先生の読文紹介
分かりやすくするため…図や・方向・色・場所・順序というポイントを確認して、先生の読文から分かりやすくするための言葉を足して読んでチェック
2. 自分で決めた持ち合わせ場所を調べるメモを書く。（はじめは一緒に「まああわせればは（ ）です。がんばって 戻ります。」）
3. 発表



小山田スタンダード わかる授業づくりのための8項目 国語

- ゴールから逆向き設計で単元計画を立てる。
- 本時のめあてを提示する。
- 音読を授業のはじめと終わりにする。
- 言葉を探る。（漢字学習の用語を増やす。辞書を使う。言葉の泉を使うなど）
- 子どもたちが、思考を深めるために、「考えをもつ」「交流する」「まとめる」「伝える」場面を意識的に設定する。
- 事前に評価の観点を伝えてチェックできるようにする。
- 書いたものを読み直す。（推敲する）
- 本時の狙いを意識し、授業のまとめやふりかえりを行う。

8項目 自己チェック

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
5月								
6月								
7月								
9月								
10月								
11月								
12月								
1月								
2月								
3月								

学期ごとの学年の重点課題

学期	1学期	2学期	3学期
項目			

5. 取り組みから見えてきたこととこれから

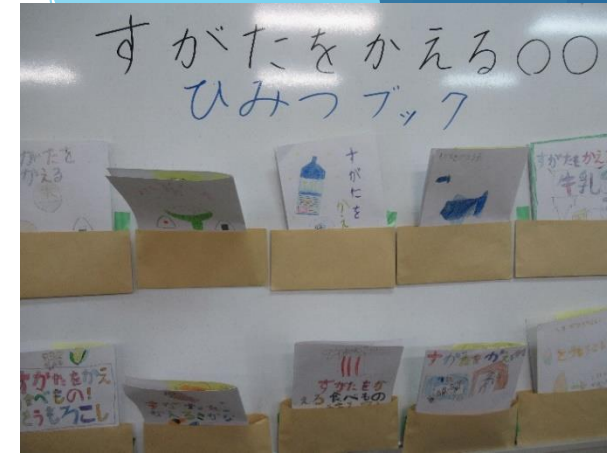
【児童】

- ▶ アンケートより
自分の考えを伝えるとき相手や目的などを意識して伝え方を工夫している。79.1%⇒79.9%
- ▶ 書く意欲が高まってきた。
- ▶ ゴールを示すことで主体性が高まった。
- ▶ 目的意識・相手意識を持つことの大切さ 1年「うみのかくれんぼクイズを作ろう」（友だちに）2年「分かりやすいおもちゃの説明書を書こう」（友だちに・1年生に）3年生「ひみつブックを作ろう」（図書室に）4年生「伝統工芸のリーフレットを書こう」（5, 6年生に）5年生「グラフや表を用いて書こう」（友だちに）6年生「伝統文化を発信しよう」（友だちに・おうちの人に）支援学級「運動会の招待状を書こう」（おうちの人に）

【教師】

- ▶ 全員で取り組むことで、系統性を考えて研究できた。
- ▶ 1学期2学期と説明文で取り組んだことで、読みを書くにつなげることを意識したり、学習の積み重ねを意識したりできた。
- ▶ 指導と評価の一体化 評価を考えるために、まずつけたい力に向けて逆向き設計でゴールの評価物を自分たちで作ってみることで、手立てや評価を具体的に持つことができた。

- ▶ 他教科への広がりを子どもたちが実感できるように意識させたい
- ▶ より子ども主体の授業づくりへ



おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C) への支援
<ul style="list-style-type: none">・調べた情報に基づき、伝統工芸のみりよくとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書くことができる【思・判・表①】・みりよく①→理由（1つは本から）→事例 みりよく②→理由→事例という順で書くことができる。【思・判・表①】	<ul style="list-style-type: none">・ロイロノートで「自分の考え」「理由」「事例」の色分けしたカードを並び替えて構成を考えさせることで、視覚的に支援する。【思・判・表①】・交流時、伝わりにくく感じたところには色を変えて付箋を貼らせるなど、視覚的に支援する。【思・判・表①】

6. おわりに

- ▶ 試行錯誤しながらとりくんできました。
- ▶ Oneteam 先生方が同じ方向を向いて取り組むことの大切さを実感しています。
- ▶ まだまだ道半ばですが、子どもも教職員も「できた!」「わかった!」「かけた!」力がついてきたと実感できる授業研究をしていきたいです。

